

世界へ発信する研究・患者に寄り添う医療、「金沢大学附属病院」ブランドを強化



金沢大学附属病院長
よしざきともかず
吉崎智一氏

1986年 金沢大学医学部卒業
1991年 金沢大学大学院医学研究科博士課程卒業
1994年 金沢大学医学部耳鼻咽喉科助手
1995年 ノースカロライナ州立大学チャペルヒル校
1997年 金沢大学医学部耳鼻咽喉科講師
2006年 クイーンズランド医学研究所
2008年 金沢大学大学院医学系研究科
感覚運動病態学
(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)教授
2014年 金沢大学附属病院副病院長
2024年 金沢大学附属病院長

2024年春、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の吉崎智一教授が金沢大学附属病院長に就任。頭頸部腫瘍を専門とし、その研究を推進とともに、後進を育て教室の発展に尽力してきた。これらは、「金沢大学附属病院」という大きなチームを率いていく」と語る吉崎病院長の思いをうかがいました。

歴史と人財に支えられ

大学病院の責務は、安心安全、高度な医療の提供です。これを実践するため、職員が力を發揮できる環境として、蒲田前病院長の意向を踏襲し、明るく元気に働く環境の充実を推し進めます。

本院の強みについては、伝統と人財であると私は捉えています。加賀藩の彦三種痘所に始まり約160年、北陸の医療拠点として、地域医療を担つてきました。

一方、各教室・講座には最先端の研究に臨み、臨床に励む傍ら、大学院で学位を取得する、そんな素養豊かな人財が揃っています。臨床では、「正解」のない「問」に対し、医学的な知見を提示し、患者さんの意思

地域の災害に即応。 先端的医療も導入

今年1月1日、能登半島地震が起きました。2020年、新型コロナウイル感染症が日本に上陸し、猛威を奮つましたが、昨年、第5類の分類となり、ひとまずの安堵を得た矢先です。本院では地震発生の当日、入院患者さんの安全確認と施設の点検を行い、対策本部を立ち上げました。

「なくてはならない 存在を目指す

患者さんの受入れ、被災地への医療支援を行いました。現在も引き続き、サポートを行っています。

今年3月、本院では第2中央診療棟の全面供用を開始しました。年々手術数が増え、同時に、手術待ちの患者さんが多くなる現状を開けるため、手術室を新設しました。北陸で初めてとなる術中MR「h i n o t o r i®」、感染症の患者さんに対応できる手術室など、最新鋭の設備を備えています。

く、自身を鍛え続けてほしいと思

います。

2019年、厚生労働省は再編・

統合などを検討すべき公的な病

院を公表しました。本院には長年

積み上げてきた臨床、研究、教育の

実績がありますが、大学病院とは

いえ、たゆみなく、自身の存在感を

示していくかなくてはならない、そ

ういう時代です。「金沢大学附属病

院」というブランドを高めることに

励んでまいります。



病院の最新情報を発信するべく、広報担当者と打ち合わせを行う

「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり」、医師であり、政治家として大成した後藤新平さんの言葉です。若い先生たちには小さくまとまらず、遠くを見すえて大きな志を抱いてもらいたいという思いがあります。たとえば野球の大谷翔平さん、将棋ならば藤井聰太さん、ですかね。彼らのように、一つの勝利に満足することな

く、本院の高度医療提供の機能を保ちつつ、関連病院の支援、半島からの